調査に関する事前評価済（R４）

令和６年度　公共事業事前評価調書

1.事業説明シート

（区分）（国補）・県単

事業名	中山間地域整備事業〔中山間地域総合整備事業（国補）〕	事業箇所	北杜市小淵沢町、長坂町、大泉町	地区名	八ヶ岳南部（やつがたけなんぶ）	事業主体	山梨県

（１）事業の概要

①課題・背景

本地区は北杜市の北部に位置し、八ヶ岳南麓の豊富な湧水とため池の利用による水稲を中心に、野菜・果樹など様々な作物が生産されている自然環境豊かな中山間地域である。

この地域は梨北米をはじめ食味のよいブランド米の産地として確立され、畑地帯においても有機野菜やそばなどを栽培し直売所を通じた都市交流が活発化している。

しかしながら、本地区は昭和から平成前半にかけて区画整理が行われた地域であるが、一部未整備の農地は小規模で分散していて作業効率が悪く、用排水路や農道は老朽化によって維持管理に多大な労力を要しており、地区内の生産基盤の課題は多い。

このことから区画整理、用排水路等の地域ニーズに合った基盤整備を実施し、地域農産物の生産性の向上と農業経営の安定化を図ると共に、観光産業との連携による活性化を推進することで持続可能な地域農業の発展に寄与するものである。

②整備目標・効果

□主要目標　○中山間地域等の農村生活・生産機能の向上

区画整理等の基盤整備の実施により、担い手への農地集積を図るとともに作業効率の向上など地区内の営農条件が改善され産地強化が図られる。

・面積当たり農業所得増加額　1,415千円/ha ≧ 1,322千円/ha※
（※評価基準値）

□副次目標　○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上

・対象路線の幅員4m以上道路延長率　100.0% ≧83.0%　※

○農業用排水能力の向上

・施設老朽度

使用年数(39年)÷耐用年数(26年) =1.50≧1.0※

・排水能力向上率

(計画排水能力) 0.478m3/s÷(現況排水能力)0.349m3/s

＝1.37≧1.0※　（※評価基準値）

□副次効果　○遊休農地の解消（遊休農地を農地として再利用する具体的な計画あり）

○農地の保全（現在、農地の浸食・埋没・崩落の恐れあり）

③目標達成の方法

担い手への農地集積を進めるとともに作業効率の改善を図るため、区画整理や農道などの整備を総合的に実施する。

区画整理 4工区、用排水路 28路線、農道 １路線

（２）整備内容

①整備内容　区画整理 A=6ha、用排水路 L=8,250m、農道 L=440m、ため池 N=2箇所、農業集落道L=560m

②着手年度　令和７年度　　③完成見込年度　令和15年度

④総事業費　約2,200百万円
（国費1,210百万円(5.5/10)、県費660百万円(3.0/10)、市費等330百万円(1.5/10)）

⑤年度別の整備内容

		（事業費）
令和７年度	測量・設計・換地	100 百万円
令和８年度	区画整理、用排水路	250 百万円
令和９年度	区画整理、用排水路	250 百万円
令和10年度	区画整理、用排水路、ため池	300 百万円
令和11年度	区画整理、用排水路、農道	300 百万円
令和12年度	区画整理、用排水路、農業集落道	300 百万円
令和13年度	換地、用排水路、ため池	250 百万円
令和14年度	用排水路	250 百万円
令和15年度	用排水路	200 百万円

※記載内容は見込みであり、確定したものではない。

⑥既整備内容・期間・事業費

該当なし

（３）中・長期計画等の位置付け

・「山梨県総合計画」（令和5年10月策定）
・「山梨県社会資本整備重点計画（第4次）」（令和4年9月改定）
・「やまなし農業基本計画」（令和6年1月策定）

（４）事業位置図

地理院地図（国土地理院）を加工して作成

2.評価シート

（1）公共関与の妥当性（行政が行うべき事業か）　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

本事業は食料・農業・農村基本法に位置づけられている、農業の持続的発展、食料安全保障の確保、景観保全や土壌流出防止などの多面的機能の発揮に資するものであり、行政が行うべきものである。

（2）事業執行主体の妥当性（県が行うべき事業か）　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

本事業は、農業生産基盤を総合的に整備して農作業の効率化や農業経営の安定化を図るものであり「土地改良法施行令」第50条第7項に規定される県が主体となって行うべき事業である。

（3）経済効率性　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

総事業費	2,200 百万円		工期	R7～R15		基準年	R6
経済効率性	費用	2,396	百万円	便益		3,261	百万円
	当該事業費	1,666	百万円		作物生産効果	2,573	百万円
	関連事業費等	730	百万円		災害防止効果	550	百万円
					国産農産物安定供給効果	447	百万円
					その他※	△309	百万円
	B／C	1.4					

※その他は、走行経費節減効果、一般交通等経費節減効果、営農経費節減効果、品質向上効果、耕作放棄防止効果、維持管理費節減効果

費用便益比（B/C）は、1.0を超えており、経済効率性は確保されている。

（4）事業実施・規模の妥当性　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

地区内の営農条件改善に必要な整備量としている。

口同等施設等（計画を含む）の有無　〈有・無〉

（状況）

新規及び老朽化した既存施設の改良であり、機能を代替する施設はない。

口必要整備内容とその根拠

（状況）

区画整理：　農作業の省力化や農地集積・集約化を図るためのもので、狭小かつ不整形で作業効率が悪く、地域農業者へ集積が進んでいない農地を対象とした。

用排水路：　老朽化により用水の安定確保や排水能力に支障をきたしている水路を対象とした。

農道：　農作物の運搬時に農作業車両がスムーズにすれ違うことができるように、道幅が狭い農道を対象とした。

ため池：　大規模な地震または豪雨による決壊を未然に防止するため、基準を満たしていないため池を対象とした。

（5）整備手法の有効性　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

農業生産基盤を一体的に整備することで、営農条件が改善されるため、農業の振興には最適な事業であるとともに、主に老朽化した水路の整備を進めることで農業経営の安定化を図り、同時に継続的な農地の保全につなげるものである。

口他の整備手法の有無　〈有・無〉

（状況）

中山間地域のような生産の条件不利を改善するためには、本事業の他に適した事業はない。

（6）環境負荷等への配慮　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

本事業の実施にあたっては、既存施設の改修を中心とすることで、環境への負荷の軽減を図る。

区画整理や農道工事では、土の切盛量を少なくするなど、現状の地形に応じた計画とする。

なお、工事による生態系、景観等への影響があると判断された場合には、回避、代替、低減などを踏まえた対策を講ずる。

（7）事業計画の熟度　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

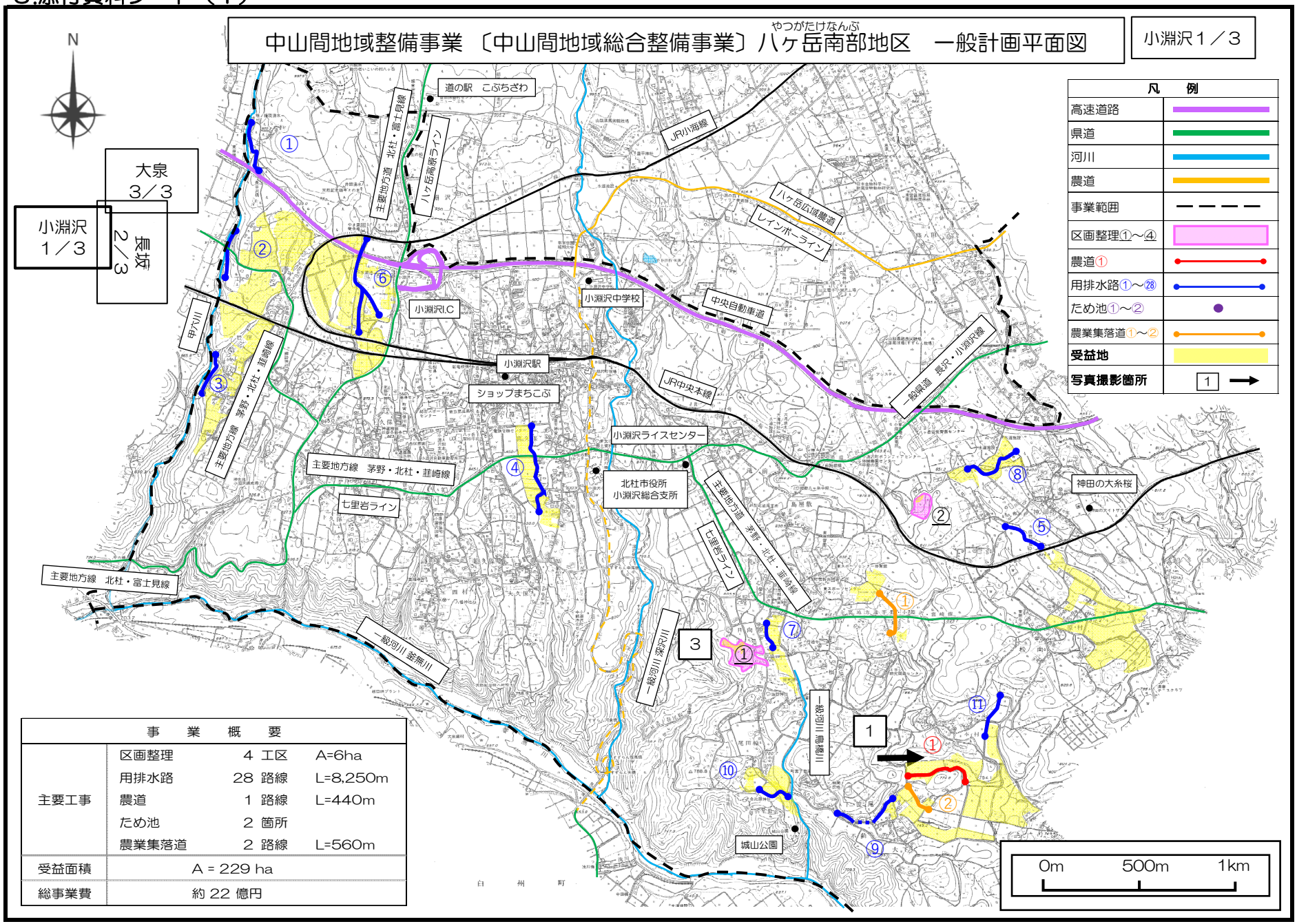
事業の円滑な推進のため、関係市は事業計画にあたり耕作者を対象とした説明会や営農に対するアンケート調査を実施しており、整備を希望し合意された施設を整備対象としている。

また、事業を進めるうえで地域間の連携や調整が重要であることから、地区内の代表者で構成する「北杜市土地改良事業推進委員会」が設立されるなど、地元の理解度は高く、事業を推進する体制も整っている。

《総合評価》　〈妥当・妥当でない〉

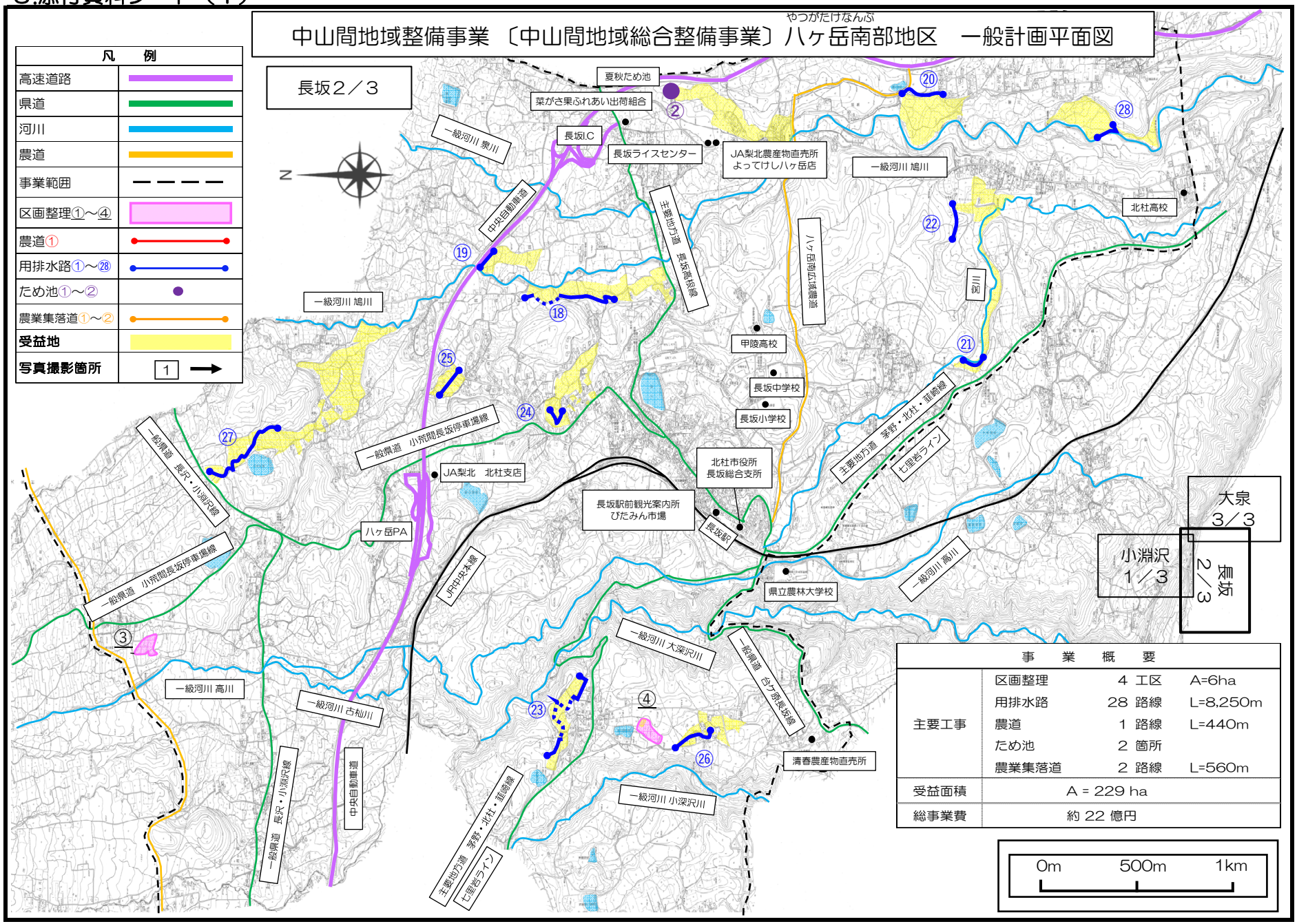
7項目全て妥当と評価されることから、実施が妥当と判断する。

3.添付資料シート（1）



事業概要			
主要工事	区画整理	4 工区	A=6ha
	用排水路	28 路線	L=8,250m
	農道	1 路線	L=440m
	ため池	2 箇所	
	農業集落道	2 路線	L=560m
受益面積	A = 229 ha		
総事業費	約 22 億円		

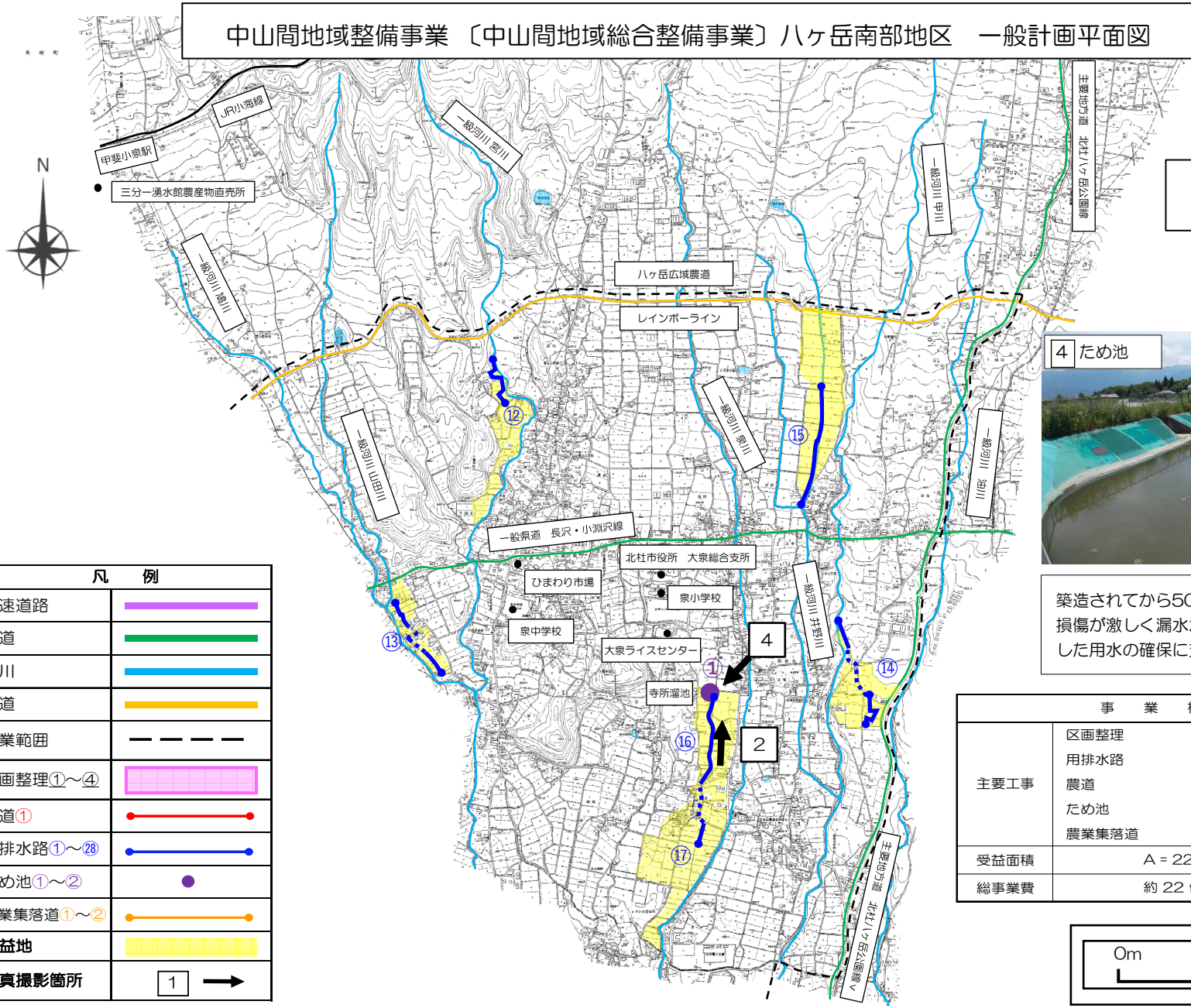
3.添付資料シート（1）


中山間地域整備事業〔中山間地域総合整備事業〕八ヶ岳南部地区　一般計画平面図
長坂２／３
凡　例
高速道路
県道
河川
農道
事業範囲
区画整理①～④
農道①
用排水路①～㉘
ため池①～②
農業集落道①～②
受益地
写真撮影箇所
夏秋ため池
菜がさ果ふれあい出荷組合
長坂C
長坂ライスセンター
JA梨北農産物直売所 よってけし八ヶ岳店
一級河川 泉川
一級河川 鳩川
中央自動車道
主要地方道 長坂高根線
八ヶ岳南麓農道
北杜高校
甲陵高校
長坂中学校
長坂小学校
北杜市役所 長坂総合支所
長坂駅前観光案内所 びたみん市場
長坂駅
JA梨北 北杜支店
一般県道 小荒間長坂停車場線
一般県道 長沢・小淵沢線
ハヶ岳PA
JR中央本線
県立農林大学校
一級河川 高川
一級河川 古杣川
一級河川 大深沢川
一級河川 小深沢川
一般県道 谷ヶ原長坂線
清春農産物直売所
主要地方道 茅野・北杜・韮崎線
七里岩ライン
大泉 3／3
小淵沢 1／3
長坂 2／3
事業概要
主要工事
区画整理 4 工区 A=6ha
用排水路 28 路線 L=8,250m
農道 1 路線 L=440m
ため池 2 箇所
農業集落道 2 路線 L=560m
受益面積 A = 229 ha
総事業費 約 22 億円
0m 500m 1km

3.添付資料シート（1）

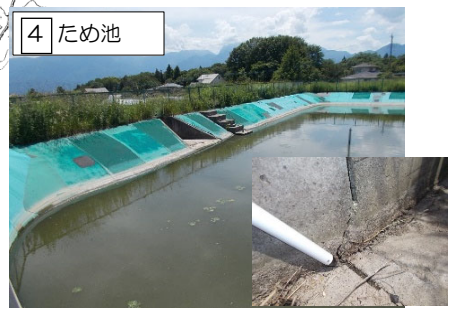
中山間地域整備事業〔中山間地域総合整備事業〕八ヶ岳南部地区　一般計画平面図

大泉３／３



凡　例	
高速道路	
県道	
河川	
農道	
事業範囲	
区画整理①～④	
農道①	
用排水路①～㉘	
ため池①～②	
農業集落道①～②	
受益地	
写真撮影箇所	1 →

4 ため池

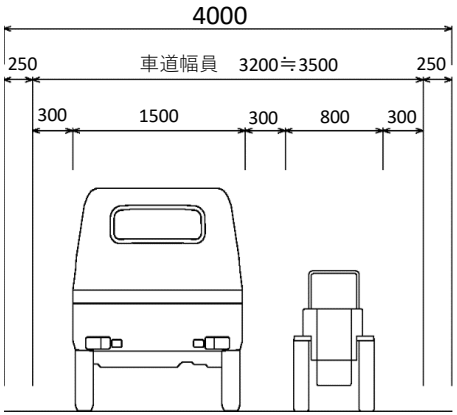


築造されてから50年以上が経過しており、損傷が激しく漏水が発生するなど、安定した用水の確保に支障が生じている。

事　業　概　要			
主要工事	区画整理	4 工区	A=6ha
	用排水路	28 路線	L=8,250m
	農道	1 路線	L=440m
	ため池	2 箇所	
	農業集落道	2 路線	L=560m
受益面積	A = 229 ha		
総事業費	約 22 億円		

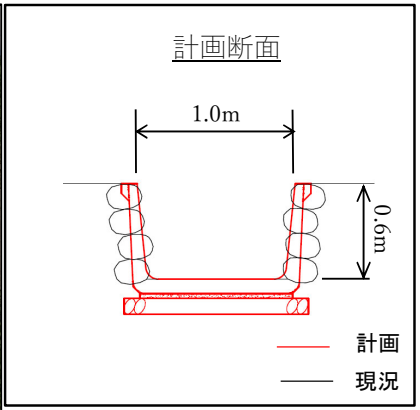
0m　500m　1km

1 農道



地区内の農道は道幅が狭く、農作業車両のすれ違いが困難である。
また、既設の道路は未舗装で路盤材の流出や侵食の進行により維持管理に多大な労力を要しているほか、安全走行に支障が生じている。

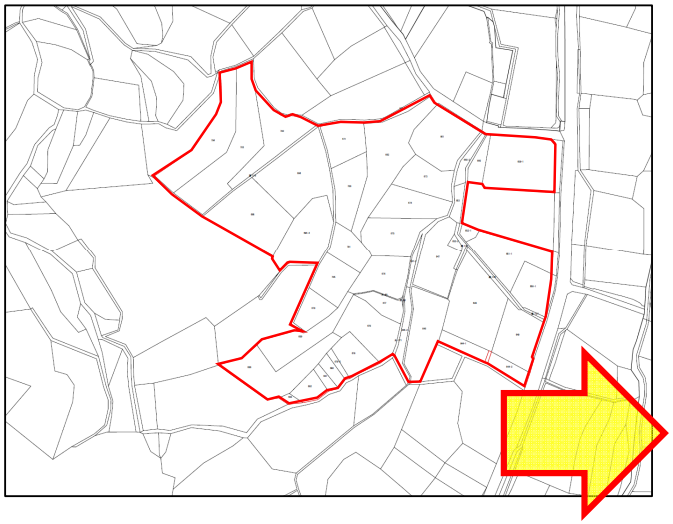
2 用排水路



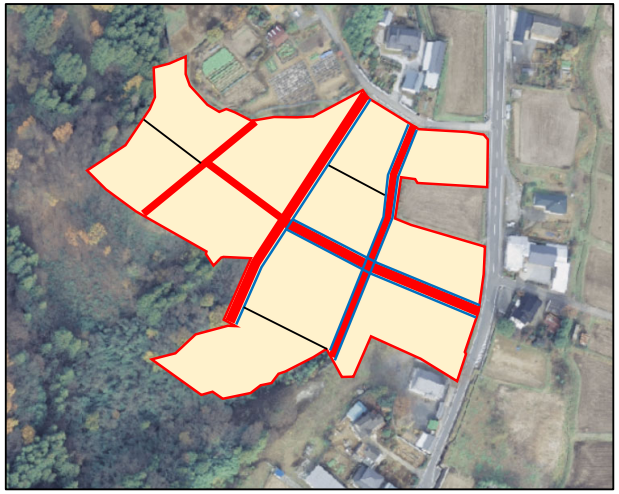
地区内の水路は老朽化が著しく、背面土の吸い出しによる陥没が生じるなど、維持管理に多大な労力を要している。

3 区画整理

現況（区画整理①）



整備後の区画イメージ



（工区面積） A=2.1ha
筆数：44筆　　平均面積 461㎡/筆

（工区面積） A=2.1ha
筆数：11筆　　平均面積 1,900㎡/筆

区画整理により狭小で不整形な農地の傾斜の緩和や区画の拡大を図ることで農作業の効率化や地域農業者への農地集積を進める。

地区内で収穫された農作物が多数取り揃えられている。県内外から多くの人が訪れ、農産物の販売や都市住民との交流の場となっている。今後は基盤整備の実施により更に農産物の品質向上と出荷安定を図り、農産物の売り上げ増加、生産者の所得向上を目指す。